

さくらリサイクルセンター 資源化ごみ処理施設

1. 施設概要

本施設は、三重県北西部に位置する伊賀市の「さくらリサイクルセンター」（当社施工の RDF 化施設。2002年竣工）の敷地内に建設されたリサイクル施設である。

本施設では伊賀市北部地区で収集される、金属性粗大および金属類、アルミ缶、ペットボトル、びん類、プラスチック製容器包装の資源ごみを1日5時間運転で17.3t処理し、資源化物を回収する。

建設用地として既存 RDF 化施設と同一敷地内の空きスペースを利用する計画であり、用地の形状、面積に制約があった。このため、幅約19m × 長約110m と細長い建屋にごみの受入ヤードから処理設備、資源化物の貯留ヤードを合理的に配置した施設

となっている。

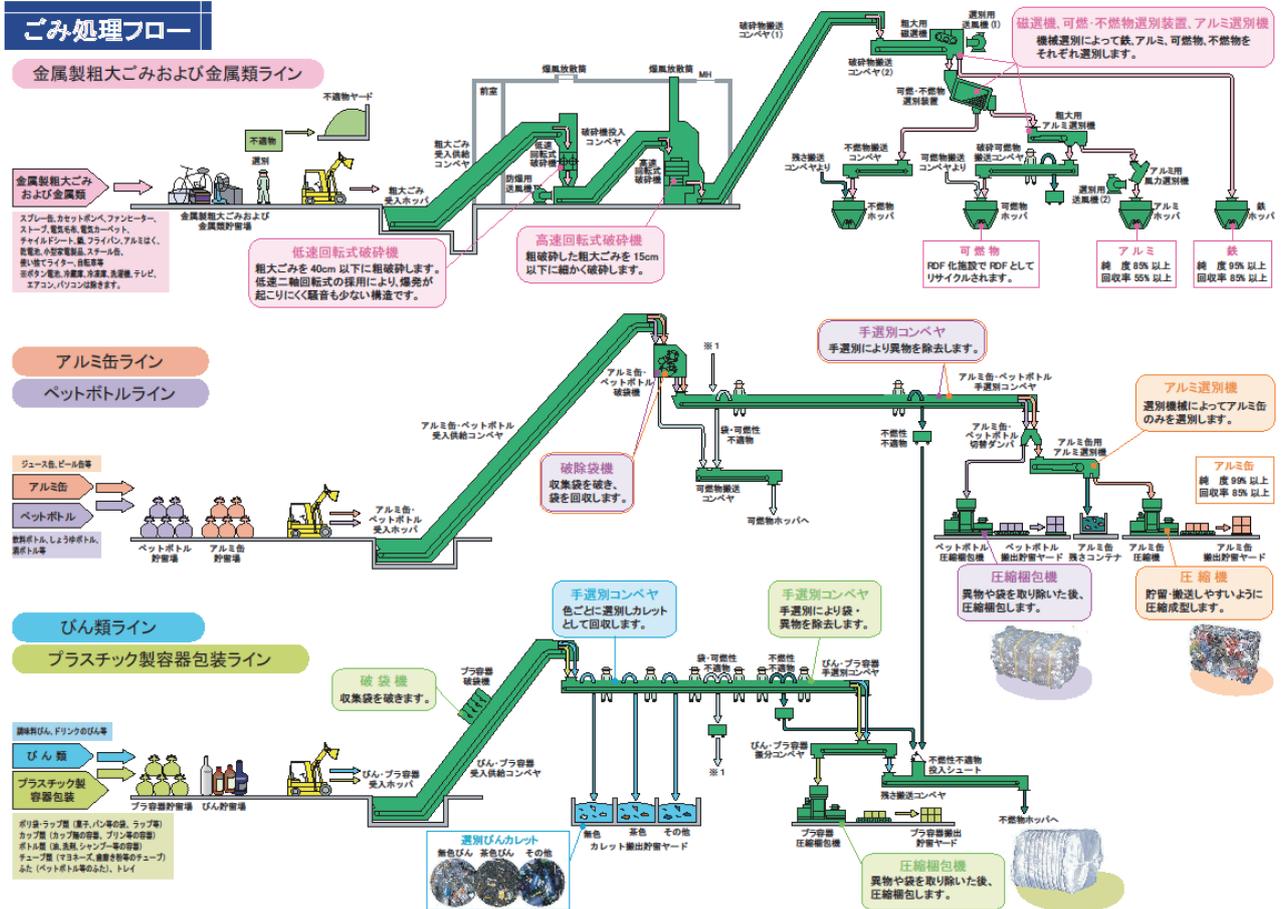
特に処理設備は、限られたスペース内に必要な機能を有したプラントを配置する必要があり、処理ラインの兼用化（1ラインで2種類のごみを処理できる）を採用してこれを達成している。

2. 処理設備

2.1 処理能力および処理対象物

全体処理能力は17.3 t/d であり、処理対象物は以下の①～⑤である。

- ① 金属性粗大ごみおよび金属類：7.3 t/d
- ② びん類：2.4 t/d
- ③ プラスチック製容器包装：6.0 t/d
- ④ アルミ缶：0.5 t/d
- ⑤ ペットボトル：1.1 t/d





本施設では、②と③、および④と⑤の処理ラインをそれぞれ兼用し、時間差処理を行うことで、3ラインで5種類のごみ処理が可能となっている。この処理ラインの兼用化により、限られたスペースに必要十分な機能を有した処理設備を配置でき、また機器点数を削減したことでメンテナンス費の削減も図られている。

2.2 処理の流れ

1) 金属性粗大ごみおよび金属類

金属性粗大ごみおよび金属類は2種類の破碎機で破碎処理後、磁選機で鉄を、可燃・不燃物選別装置にて不燃物を、アルミ選別機でアルミを選別回収し、残りは可燃物として回収する。

回収物は貯留ホッパで貯留する。

2) びん類

びん類は手選別により無色・茶色・その他の色別に回収し、貯留ヤードで貯留する。

3) プラスチック製容器包装

プラスチック製容器包装は、手選別しやすいように破袋機で収集袋を破袋したのち、手選別により異物を除去後、圧縮梱包機で圧縮梱包して貯留する。

4) アルミ缶

アルミ缶は破袋機にて収集袋を破り除去した後、手選別で異物除去を行い、アルミ選別機でアルミ缶のみを回収し、圧縮機で圧縮・成型して貯留する。

5) ペットボトル

ペットボトルは破袋機にて収集袋を破り除去した後、手選別で異物除去を行い、圧縮梱包機で圧縮梱包して貯留する。

3. 稼働状況

本施設は、2010年6月25日の竣工以降、順調に稼働を続けている。回収された資源化物は、リサイクル資源として再び資材や製品として生まれ変わり、資源循環型社会の構築に寄与している。